

港のたより

Letter of Port

Vol. 134

2020.11.19



(一社) 寒地港湾空港技術研究センター

COLD REGIONS AIR & SEA PORTS ENGINEERING RESEARCH CENTER



供用開始した厚岸漁港衛生管理施設(釧路開発建設部)

Contents

みなとの ニュース

旭川空港の空港運営事業開始について	2
厚岸漁港衛生管理施設の完成	3
石狩湾新港ガントリークレーン2号機が供用開始	6
苫小牧港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました	7
『みなとオアシスるもい』が誕生しました 〜かずの子のマチ留萌で食と観光を楽しもう!〜	8

お知らせ

「ザ・シンポジウムみなと in 札幌」のWEB開催について(予告)	10
関口信一郎氏が北海道の港町形成史と近代築港のルーツを描いた著書を刊行しました	10
第23回国土技術開発賞の募集のお知らせ	11

編集後記

12

みなとのニュース

旭川空港の空港運営事業開始について

北海道エアポート株式会社

北海道エアポート株式会社(本社：千歳市、代表取締役社長：蒲生猛)は2020年10月1日から、旭川空港の空港運営事業(運航情報、保安防災、施設管理、灯火電気など)を開始しました。

当社では本年4月以降、管理者の旭川市から座学訓練、実技訓練、現場OJTなど約6ヵ月間にわたり空港運営事業の引き継ぎを受けてまいりました。

今後、空港運営事業は当社の「旭川空港事業所」が担い、旭川市の職員によるご指導を頂きながら、安全・安心を第一とした空港運営に向け、全社一丸となって着実に取り組んでまいります。これから冬を迎えるに当たり、高い就航率を誇る旭川空港の除雪業務にしっかりと取り組み、冬季も安定した就航率の維持へ努めてまいります。

また、10月1日より、旭川空港に着陸料等割引制度を導入いたしました。運航開始から4年間、段階的に割引を適用する「新規就航割引」、対前年度増量分に対して割引を適用する「増量割引」を運用し、航空ネットワークの拡充を目指します。

【旭川空港事業所の概要】

場 所 旭川空港内(旧旭川市空港事務所)
人員体制 18人体制(旭川市からの出向者を除く)

【これまでの経緯と今後のスケジュール】

2019年8月23日 会社設立
10月31日 管理者(国、旭川市、帯広市、北海道)と実施契約締結
2020年1月15日 7空港のターミナルビル会社等の運営を開始
6月1日 新千歳空港の空港運営事業を開始
10月1日 旭川空港の空港運営事業を開始
2021年3月1日 稚内、釧路、函館、帯広、女満別の5空港の空港運営事業を開始

詳細については弊社ホームページをご覧ください。

https://www.hokkaido-airports.co.jp/uploads/2020/10/201001Asahikawa-airport_startweb_ver_.pdf



秋の旭川空港

厚岸漁港衛生管理施設の完成

釧路開発建設部 築港課

1. 衛生管理施設整備の背景

厚岸漁港は、道内外のサンマ棒受網、サケ・マス流し網などの沖合漁業の全国有数の流通拠点として、また、コンブ、カキ、アサリ等の沿岸・養殖漁業の生産拠点として重要な役割を担っています。当漁港は、これまで陸揚拠点となっていた湖北地区の岸壁・用地が狭隘であるとともに、サンマ盛漁期においては荷捌所周辺に多数の漁業関係車両が集中するため、出荷車両との輻輳が発生し、危険かつ非効率な作業を強いられていました。また、消費者の水産物の安全・安心に対する要請に応じていくため、陸揚げから出荷までの全

工程において、鳥糞等の異物混入防止や清浄海水の導入などソフト・ハードの両面から衛生管理対策の強化が求められていました。

以上の背景により、狭隘な湖北地区から湖南地区に陸揚げ機能を移転し、効率的な車両等の動線を確保するとともに、屋根付き岸壁や清浄海水導入施設の整備、高度衛生管理に対応した荷捌施設の新設等を行い、地域で取り組むソフト対策と連携した総合的な衛生管理対策の拠点となる施設がこの度、厚岸漁港に完成しました。

整備施設の概要は次のとおりです。



厚岸漁港衛生管理施設 整備箇所



湖北地区における陸揚げ状況

2. 整備施設の概要

①人工地盤(北海道開発局)

建築面積：A = 3,346.29m²

構造：鉄骨造 地上2階建

用途：(1階)荷捌施設、保管・積込スペース

用途：(2階)漁港利用者駐車場、一次避難場所

②屋根付き岸壁(北海道開発局)

施設規模：屋根施設 L = 403.0m、B = 35.0m、

内空高 12.0m(海側)、5.5m(陸側)

建築面積 10,768.61m²

構造：鉄骨造 平屋建

用途：陸揚げ岸壁(サンマ、イワシ、サケ等)

③清浄海水導入施設(北海道開発局)

(想定ピーク時最大使用量 ろ過・滅菌・冷却水約
67t/hr、原水、電解水 122t/hr)

取水ポンプ：1式(港外より取水)

滅菌装置：紫外線殺菌

ろ過機：53.3m³×2基

貯水槽：39.4m³×6基

構造：鉄筋コンクリート造

建築面積：A = 448.80m²

④荷捌施設(厚岸漁業協同組合)

施設規模：A = 1,735.61m²

構造：鉄骨造 平屋建

設備：蓄養水槽、低温倉庫、電動フォークリフト、市場控室等

⑤陸揚げクレーン(厚岸漁業協同組合)

構造：2.9t吊×3基

⑥トラックスケール(厚岸漁業協同組合)

施設規模：A = 182.51m²

構造：鉄骨造 平屋建

⑦若竹第2埠頭漁港休憩施設(厚岸町)

施設規模：A = 173.69m²

施設規模：鉄骨造 平屋建

3. 竣工式の開催

令和2年7月23日、衛生管理型荷捌施設の竣工式が厚岸漁業協同組合の主催で開催され、関係者約90人が出席しました。式では、主催者代表である厚岸漁業協同組合の川崎組合長の挨拶の後、来賓の若狭厚岸町長と、石川釧路開発建設部長、山口釧路総合振興局長より祝辞があり、その後、鏡割りが行われ会場から大きな拍手がありました。式後は内覧会として、完成した施設の見学会を行い、見学者からはスケールの大きさに驚きの声があがり、また、完成直後の岸壁には大漁旗を掲げた漁船が一斉に接岸し、華やかなムードに包まれました。

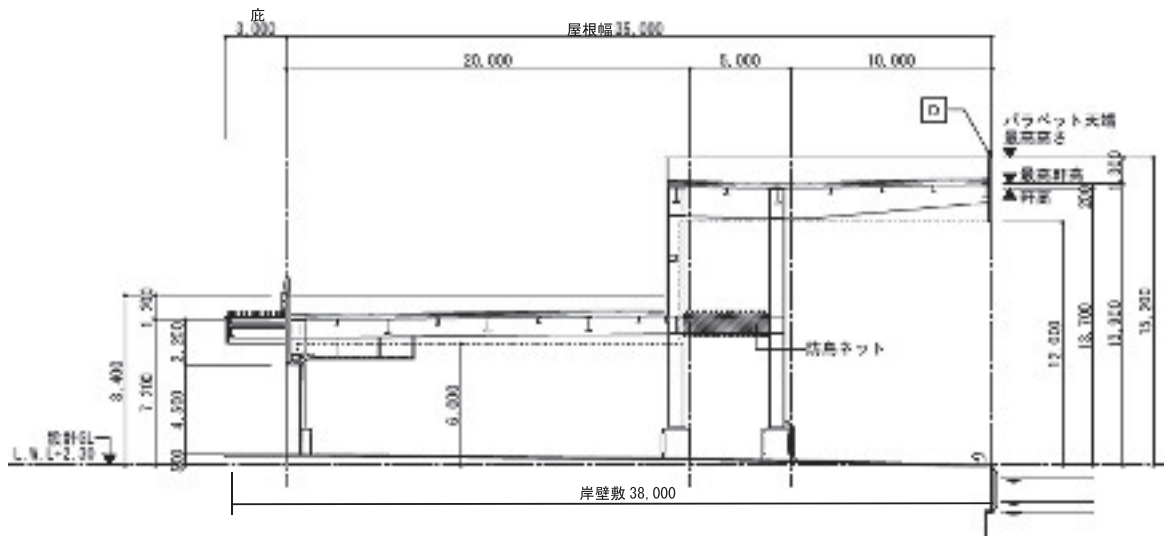
新型コロナウイルス感染症の拡大等により、水産業を取り巻く環境は厳しい状況ですが、衛生管理施設の完成を契機として、安全・安心な水産物の安定供給が図られ、地域水産業の一層の発展が期待されます。



衛生管理施設全景



整備施設位置図



屋根施設断面図



清浄海水導入施設 (左：建物外観、左：ポンプ施設等)



竣工式の状況①



竣工式の状況②

石狩湾新港ガントリークレーン 2 号機が供用開始

石狩湾新港管理組合

石狩湾新港では、昨年度より製作を進めていたガントリークレーン 2 号機がこの度完成し、9 月 13 日に初荷役が行われました。これにより、北海道日本海側で複数のガントリークレーンを備えるのは本港が初めてとなりました。

今回のガントリークレーンの新設では、近年のコンテナ船の大型化へ対応するため、既設 1 号機は 10 列×5 段積のコンテナ船対応であったのに対し、新設 2 号機は 11 列 5 段積のコンテナ船に対応し、より広範囲での荷役作業が可能となりました。また、ガントリークレーンが 2 基体制となることで、1 基が故障や点検等で使用できなくなった場合も、バックアップとして、コンテナの安定的な受け入れが可能となり、さらに確実なサービスが提供できるようになります。

難航した海上輸送

大分の工場にて、約半年かけて製作・組立てられたガントリークレーンは、ほぼ完成形の荷姿で、日本に 1 隻しかない大型特殊台船「天佑」に載せられ、日本海側ルートを航行。途中、低気圧による大時化に見舞われましたが、緩急をつけた航行速度の調整や富山湾内での一時避難などで大時化をやり過ごしながら、約 1 週間かけて石狩湾新港へ予定通り入港しました。

短時間の設置を可能とする「フォークオフ工法」

ガントリークレーン 2 号機が設置される花畔ふ頭岸壁は、既設 1 号機による週 3 便のコンテナ荷役が行わ

れているほか、同じ岸壁上にセメントピットがあり、岸壁に接岸したセメント船の吐出管とピット内にあるセメント圧送管を接続し、岸壁背後にあるセメントサイロへとセメントの搬入が行われます。このため、ガントリークレーン 2 号機の設置作業で岸壁を専有できる時間は限られてくることから、台船から岸壁上への設置をできる限り短時間で行うことが可能な「フォークオフ工法」を採用しました。

この工法では、ガントリークレーンを台船から直接岸壁に設置されたレール上に据え付けることができるため、仮設機材の設置が不要となり、短時間で据え付けを行うことができます。

台船の船尾はフォークのような構造になっており、岸壁に縦付けされた台船のフォーク先端を岸壁に差し込み、甲板上に設けられたレールに載っているガントリークレーンをウインチによって引き出します。フォークの先端まで引き出されたガントリークレーンは、台船のバラスト調整によって岸壁に設置されたレール上へと降ろされます。

ガントリークレーン設置後も引き続き、コンテナ船、セメント船が不定期に入港し、荷役が行われるため、関係各所と随時調整を図りながら工事を進め、無事、供用開始の日を迎えました。

今後は、札幌圏の物流拠点機能を担う本港の利便性を広く PR し、新たなコンテナ航路の誘致など、更なる利用拡大に取り組んでまいります。



大型特殊台船「天佑」による
フォークオフ工法での 2 号機設置状況



ガントリークレーン 2 号機(手前)と 1 号機(奥)

苫小牧港が「釣り文化振興モデル港」に指定されました

苫小牧港管理組合

「釣り文化振興モデル港」は、国土交通省港湾局が、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地域創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾をモデル港として募集しているものです。

平成31年3月29日には全国で13港、令和2年8月3日には苫小牧港を含む3港が指定となり、現在は全国16港が指定されていますが、北海道では苫小牧港が初のモデル港となりました。

令和2年10月6日にはモデル港の指定証交付式も執り行われました。

釣り場開放箇所は、市街地から車で約30分のところにある東港区区内防波堤(苫小牧市字弁天)で、釣りの初心者でもサビキ釣りでサバやアブラコ等がよく釣れることから、家族で安心して楽しめる釣り場としても期待ができる場所です。

現在、釣り場開放に向けて、マナー教育の徹底や安全対策を十分に検討する必要があるため、公益財団法人日本釣振興会北海道地区支部や苫小牧港管理組合、行政機関や釣り団体等で構成する「苫小牧港海釣り施設協議会」で検討を重ねているところであり、来年度の釣り場開放に向けて取り組んで参ります。



令和2年10月6日 指定証交付式の様子
(左から佐々木秀郎苫小牧港管理組合専任副管理者、魚住聡北海道開発局港湾空港部長、岩倉博文苫小牧市長、北野宏明日本釣振興会北海道地区支部長)



令和2年9月27日 試験開放の様子



釣り場開放イメージ

『みなとオアシスるもい』が誕生しました ～かずの子のマチ留萌で食と観光を楽しもう！～

留萌市地域振興部経済港湾課

令和2年7月26日に「みなとオアシスるもい」（北海道留萌市）が「みなとオアシス」として登録されました。

「みなとオアシスるもい」は「船場公園（るしんふれ愛パーク）」、「古丹浜ふ頭-10m 岸壁」、「南岸壁」、「黄金岬海浜公園」の4施設から構成され、代表施設である「船場公園（るしんふれ愛パーク）」は、札幌や旭川などの主要都市と留萌市を結ぶ玄関口として多数の観光客を受け入れるとともに、7月11日には道の駅として開業するなど、地域特産物の販売や飲食店を備える留萌市を代表する情報発信拠点となっています。

今年は新型コロナウイルス感染症による影響からイベントの開催が難しい状況ですが、感染症対策を十分に行った上で、登録記念セレモニーを「船場公園（るしんふれ愛パーク）」で8月26日に開催しました。セレモニーでは「登録証」が交付されたほか、みなとオアシスをPRする看板がお披露目となりました。

今後は、構成施設において実施される各種イベントとの連携や地域の情報発信による「かずの子のマチ留萌」のブランド力強化など、「みなと」を核としたまちづくりや交流促進などの魅力向上に努めてまいります。



「みなとオアシスるもい」の構成施設

- : みなとオアシス代表施設
- : みなとオアシス構成施設



留萌市へ登録証交付
 (左から魚住聡 北海道開発局港湾空港部長、中西俊司 留萌市長、對馬 健一 みなとオアシスるもい運営協議会会長)



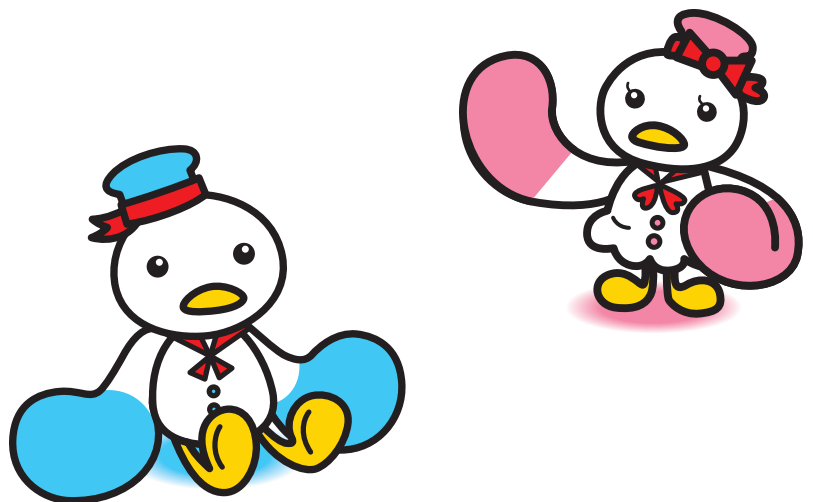
『みなとオアシスるもい』看板の除幕



(イベント)『かずの子のマチ留萌』フェスタ

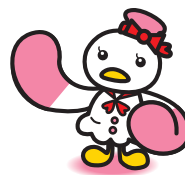


(イベント)るもい呑涛まつり





お知らせ



●「ザ・シンポジウムみなと in 札幌」のWEB開催について(予告)

今年度の「ザ・シンポジウムみなと」は、12月11日(金)に右記の内容で開催の予定です。

なお、今回は新型コロナウイルス感染症対策のため、WEBによるライブ画像の配信で行います。詳細についてはホームページ等でご案内致します。

○テーマ：『新エネルギーを担う北海道のみなと～北海道における洋上風力発電の円滑な導入に向けて～』

○開催日時：令和2年12月11日(金)
14:00～

●関口信一郎氏が北海道の港町形成史と近代築港のルーツを描いた著書を刊行しました

当センター会員の関口信一郎氏が「北海道みなとまちの歴史 ～廣井勇が育んだ北の日本近代築港」を刊行しました。本書は明治期に海外から日本へ移植された近代築港の科学と、北海道開拓と港町の形成に大きく貢献した事実を明らかにした歴史書です。

日本における近代築港を、開拓期の北海道を舞台に生み育てた廣井勇は、札幌農学校を卒業後、アメリカで工学を学びました。その豊富な知識と北海道開発への使命感で、廣井は自ら道内の港湾開発を指導しました。これによって、北の地で近代築港の技術が大きく

発展した事実を明らかにします。さらに、函館・小樽・室蘭・釧路・留萌・苫小牧の各港が、いつ・どこで・どのような理由により建設されたかを詳述するとともに、港の建設とそれに伴う産業経済の発展によって港町が発展した過程が、歴史的・空間的に把握できるように記述。小樽運河や釧路港の建設過程など、従来の歴史書において不正確な点も訂正しました。(本書パンフレットより引用)

北海道の港町形成史と近代築港のルーツを知るための著書としてお勧めします。

本書購入の申し込みは下記のとおりです。



発行・発売 亜璃西社
札幌市中央区南2条西5丁目
FAX 011-221-5386

● 第 23 回国土技術開発賞の募集のお知らせ

技術開発者に対する研究開発意欲の高揚並びに建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設産業に係わる優れた新技術を表彰(国土交通大臣表彰)するものです。また、中小建設業者、専門工事業者等の創意工夫やアイデアにあふれた技術を、特別賞「創意開発技術賞」として表彰(国土交通大臣表彰)します。

応募要領は(一財)国土技術研究センター 国土技術開発賞 のページをご覧ください。

<http://www.jice.or.jp/review/awards>

応募期間：令和 2 年 10 月 14 日(水)～
令和 3 年 1 月 13 日(水)

主 催：(一財)国土技術研究センター、
(一財)沿岸技術研究センター

後 援：国土交通省

協 賛：(一社)寒地港湾技術研究センター、
(一財)港湾空港総合技術センター ほか

問合せ先：(一財)国土技術研究センター

T E L：03-4519-5006

E-mail：kaihatsusho@jice.or.jp





何やら聞き慣れない「デジタルデトックス」という言葉があるようです。

スマートフォンやパーソナルコンピューターといったデジタル機器の使用を控え距離を置くことでストレス

を軽減させようという狙いです。現代ではデジタル機器やインターネットに費やす時間が増加しているため、こういったデトックス「毒抜き」が人気になっているのも頷けます。

私達の生活に通信インフラは欠かせないものの一つとなっています。働き方改革とも相まって、休みのときく

らい「仕事のメール」は切り離して、といってもどこでも電波が通じる世の中です。日本百名山の一つトムラウシ山においても人気の短絡路コースで携帯基地局の設置工事が行われていました。

となると、アナログゾーンに身をおいて、ゆったりするために目指すは海。長距離フェリーでは携帯電波が届かず、物理的なデジタルデトックスには最適の空間のように思えます。フェリーは沖合を航行するため各携帯電話会社の電波が圏外となることが殆どのためからです。しかしながら、それも過去の話。今では衛星回線を活用した船内 Wi-Fi サービスが幅を効かせているようです。

いまや海の上でも空の上でも、どこにでも飛び交う携帯向け電波。便利な世の中であるが故に、デジタルデトックスは各個人の“意思”に委ねられそうです。

(T.A)

表紙の写真：厚岸漁港の紹介



天然の良港で水産資源に恵まれた厚岸漁港は、その歴史は古く、江戸の頃より東北北海道の開拓の玄関・経済の中心として歴史を重ねてきました。現在も、1年を通し、30数種類もの魚介類が水揚げされ、サンマやカキは、北海道のみならず東京や大阪など本州にも出荷されるとともに、魚介類の一部は、水揚げ後の新鮮なうちに漁港近くの加工場で様々な水産加工品として製造されています。今後も、サンマ棒受網、サケ・マス流し網、イカ釣りなどの沖合漁業の流通拠点として、コンブ・カキ・アサリなどの沿岸・養殖漁業の生産拠点として重要な役割が期待されており、今年8月に供用開始した衛生管理施設はその中心的役割を担うものです。

港のたより 【Vol.134】 2020年11月19日

(一社) 寒地港湾空港技術研究センター

〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 セントラル札幌北ビル5階
TEL(011)747-1688 FAX(011)747-0146 <http://www.kanchi.or.jp>

